はじめに

本年５月下旬に病原性大腸菌Ｏ－１５７による集団食中毒が岡山県で発生して以来，患者が全国的に続発し，有症者も９千名を越え指定伝染病として指定されるなど，大きな社会問題となっています．

福岡市においても，６月中旬に市内の保育園で病原性大腸菌Ｏ－１５７による集団発生があり，有症者・無症者合計27名から菌を検出しました．その後，散発的に市内の病院を受診した患者やその家族からも続々と菌が検出され，８月26日現在，70名の感染者が確認されました．

福岡市では，７月30日付で「福岡市病原性大腸菌Ｏ－１５７対策本部」を設置して，予防対策をはじめ各般の対策を強力に推進しています．当所では，このような腸管出血性大腸菌の検便及び食品等の検査に迅速に対応しましたが、これも食中毒検査担当職員が日頃から腸管出血性大腸菌の同定、特にVero毒素産生試験技術の研鑽に努め、習熟していた賜と感謝している次第です。なお、Ｏ－１５７対策としてパルスフィールド電気泳動装置等の検査機器を新増設してDNA解析に活用しています．

さて，当所は平成９年度に「福岡市保健環境研究所（仮称)」として新たに出発する計画で，現在「研究所」を建設中であり，工事は順調に進んでおります．

「研究所」の開設に併せて，「福岡市環境保健学習室」のオープン及び「福岡市保健環境科学情報システム」の運用開始を予定しています．また，「研究所」の開設準備も含めて，平成８年度から待望の庶務係が新設され，これらの準備を着々と進めています．さらに平成８年度は博多湾水質担当主査が新設され，博多湾の水質浄化に関する調査研究に取り組んでいます．

振り返ってみますと，平成２年９月に「福岡市保健環境研究所（仮称）拡充整備基本構想」が策定されて以来６年が経過しました．そこで内容の一部を見直す必要が生じてまいりました．したがって，「研究所」において実施する調査研究等の方向性を検討する目的で，学識経験者及び市の関係職員で構成する「福岡市保健環境研究所（仮称）事業検討委員会」を設置し，現在検討中です．

平成８年度は「仮庁舎」における最後の年となりましたが，市民に開かれた「研究所」をめざしていることから，８月２日に「第３回夏休みこども体験学習会」を所内で開催し，小学生47名が参加し，電子顕微鏡の観察など所員が工夫を凝らしたテーマを楽しみながら体験し，健康や環境，自然の大切さなどについて体験学習していただきました．

平成９年４月の「研究所」開設をめざしながら，保健衛生・環境保全の諸問題に率先して取り組み，福岡市の保健・環境等の行政推進の科学的，技術的中核を果たす試験研究機関として，今後とも重要な役割を果たしていくため，所員一同なお一層研鑽を積み，努力する所存でございます．

ここに，平成７年度に所員の努力と熱意で実施した業務の概要と調査研究の成果を取りまとめ，所報第21号としてお届けいたします．ご高覧いただき，今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます．

平成８年９月

福岡市衛生試験所長
佐　藤　泰　敏